

第2回 横浜市西区地区センター及び横浜市西公会堂指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和8年8月10日（月）13時30分～17時
開 催 場 所	西区役所4階A会議室
出 席 者	【選定委員】 中西正彦委員長、大野千佳委員、中村由幸委員、西田千寿子委員、山田美智子委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部公開（傍聴者無し） ※プレゼンテーション及び質疑は公開、採点以降は非公開
議 題	1 面接審査について
決 定 事 項	次の団体を指定候補者として選定した。 1 横浜市西地区センター及び横浜市西公会堂 【指定候補者】アクティオ株式会社 2 横浜市藤棚地区センター 【指定候補者】一般社団法人西区区民利用施設協会 3 横浜市浅間コミュニティハウス 【指定候補者】一般社団法人西区区民利用施設協会 4 横浜市平沼集会所 【指定候補者】一般社団法人西区区民利用施設協会 この結果を西区長に報告する。
議 事	《会議の公開・非公開について》 第1回選定委員会の際の決定事項に基づき、面接審査後の採点並びに指定候補者及び次点候補者の選定については非公開とすることを確認した。 《議題1：面接審査について》 公募状況、面接審査の進め方について事務局から説明があった。 各応募者について、応募資格の欠格事項に該当していない旨及び財務状況については特に大きな問題は無い旨、事務局及び委員から報告があった。 最低基準については加減点項目を除く配点合計（※）×委員数の6割であることを再確認。（※西地区センター及び公会堂169点、藤棚地区センター165点、浅間コミュニティハウス155点、平沼集会所155点） ＜面接審査1：西地区センター及び西公会堂 応募者：アクティオ株式会社＞ （応募者）プレゼンテーション。 [質疑] （委 員） キャッシュレス決済は普及しているので要望は多そうだが、手数料コストの吸収は考えているか。また他施設での導入事例はあるか。 （応募者） 手数料コストを考慮し、別途提案している利用料金の改定後の導入によ

	りコストを吸収する考え。他施設は当社管理の6～7割で導入している。 (委 員) 全国展開している会社が、公会堂や地区センター等の地域に根差した施設を運営するメリット・デメリットを伺いたい。 (応募者) 地域の活性化を目的とする公共施設。コミュニティ施設では、地域と連携を深めることでその目的を実現できると考えている。デメリットは特に無い。地域ニーズを聞きながら来館者の満足度を高めていきたいと考えている。 (委 員) 一般的には、子育て中の方や高齢者にスポットがあたりがちだが、こういう施設に足が向きにくいこども、中高生や大学生等の若年層を呼び込める事業を増やしてはどうか。 (応募者) 現役世代を含めた若年層の取り込みは施設の課題と考えている。指定事業による小中学生へのアプローチ、お祭りやイベントで学生ボランティアをお願いするなど、そういう世代が活躍できるような場を提供する考え。 (委 員) 若者層へのアプローチとしては、地区センターに何を求めているかを聞くのが一番だが、まだ利用していない人の意見をどう把握するのか。 (応募者) 施設の職員・スタッフには地域の方を採用しており、スタッフから上がった声を拾って利用に繋げていく。今後はSNSを活用し、直接声を拾っていくことも検討する。 (委 員) 居住外国人への対応や多文化共生について、指定事業として多文化理解に関するものは書かれているが、居住地域の外国人とのコミュニケーションとしては物足りない。こういった方をどう取り込んでいくのか。 (応募者) 実際に外国人の利用者や利用したいという方は増えており、定期的に利用してもらえる関係づくりを考えている。コミュニケーションや文化の違いに課題もあるが、相互理解しながら交流を深めていきたい。 (委 員) 震災等の大災害時に、横浜駅周辺の帰宅困難者が溢れる状況が想定されるが、そのような緊急時の体制と対応計画について、詳細を知りたい。 (応募者) まずは利用者や職員スタッフの人命を優先し、情報収集と被害状況の確認を行う。帰宅困難者受入れ等の防災計画上の役割については、これらの状況も踏まえ、区からの要請により開設の判断をする。防災協定を締結してはいるが、実際の対応は最大限やれることを取り組んでいく。 (委 員) 地区センターの指定事業費が令和8年度よりも増えているが、人件費は逆に減っている。金額が増えるということは業務が増えることだと思うが、どう対応する考えか。また、令和8年度に比べ本部経費が増えている理由を聞きたい。 (応募者) 指定事業費の増は、事業を見直し、かかる経費を正確に計算した数値。収入も増えており受益者負担のバランスの良い計画を立てた。人件費は、一人当たりの勤務日数や業務に対する必要人員を精査のうえ効率化したもので、スタッフの負担増にはならない。本部経費は、民間企業として運営上必要な経費を計算し計上した。
--	--

【採点結果】

	団体名	得点
1	アクティオ株式会社	698.6/945

【指定候補者及び次点候補者について】

審査の結果、「アクティオ株式会社」を指定候補者として選定することと決定した。

[講評]

【指定候補者：アクティオ株式会社】

- ・全国的な施設運営の実績とノウハウを有しており、安定した施設運営が期待できる点が評価された。また、多くの施設運営を担う事業者としての経験やスケールメリットを生かした提案についても評価された。
- ・一方で、若年層の利用促進については、現状の課題を的確に認識している点は評価されたものの、具体的な取組内容や実現に向けた手法については、更なる説明を求める意見があった。また、地域に根差した施設運営という観点では、地域との連携やニーズの把握、それらを踏まえた事業展開について、より踏み込んだ提案を期待する意見があった。
- ・今後は、豊富な運営実績と地域コミュニティ施設としての役割の両立を図りながら、地域の特性を踏まえた運営や新たな利用者層の開拓を進め、施設の魅力向上につなげていくことを期待する。

＜面接審査２：藤棚地区センター 応募者：一般社団法人西区区民利用施設協会＞
(応募者) プレゼンテーション。

[質疑]

(委 員) 「つなぎ役・助け合いの拠点」といった記述があるが、具体的に地域の人のために地区センターはどういう存在と考えているか。

(応募者) 地区センターは区内に２箇所のコミュニティ施設としては比較的規模が大きな施設であり、スポーツやサークル活動、自治会町内会等の幅広い施設利用や、複数のサークル合同で藤棚まつりを開催するなど、地域の多様な活動の拠点であり、参画の機会を作り出す場としての拠点と考えている。

(委 員) 施設間の連携や人員の複数施設兼務などの話があったが、逆に職員が業務増に耐えられないか不安な面もある。この現状課題観と次期指定期間でどう改善できるのか、継続性の観点から伺いたい。

(応募者) 人員の問題については、一人体制の学校コミハに藤棚地区センターから副館長を派遣して補っており、他の施設の状況を学ぶ研修の場として館長候補の育成にも繋がると考えている。

(委 員) 利用料金を変えないことについて、この社会状況の中苦しくならないの

か。業務改善により効率化の見込みはあるのか。

（応募者） 過去 10 年間の総支出に対する利用料金の割合を確認したところ、最大 9 % 程だった比率が、令和 7 年度は 6.6 % まで落ちている。受益者負担が適切なのかは市とも共有して利用していない人とのバランスも考慮し協議していきたい。

（委 員） このご時世では、スタッフを募集しても応募が無かったり、長く続かなかったりといったことが多い。この先 5 年間は、どのように人材を育成していく考えか。

（応募者） まずは、施設を好きになってほしい。愛着があれば、辞めずに仕事を継続できる。そのためにも働きやすい環境を作るのが館長の仕事と考える。最近、介護世代のスタッフもあり、両立できる仕組みを作る必要があると考えている。

（委 員） 利用者要望について、窓口で声を聴くのは大切だが、適切な運営を維持することも大事なので、そこは一線を引くことも必要ではないか。

（応募者） 利用者の要望には、なるべくお応えできるようにはしたいと考えているが、全て受け入れることは、予算的にもルールのにも難しい。要望に対し、より良いものを新たに取り入れるということより、要望の内容にできるだけ近い形で、予算の範囲内において対応していきたいと考えている。

（委 員） 地域コーディネート機能について、施設の性格上、地域の人を繋ぐソフト面も大事と思う。この点で、現状感じている課題や改善点等あれば伺いたい。

（応募者） 藤棚は地域の人に近い施設。地区の会長会が毎月当館で開催され、館長も出席しており、直接地域の課題を把握できる。寄り添って可能な範囲で課題を解決したいと思っている。担い手不足の話が多く、利用者の小中高生に声をかけ、イベントに参加してもらう中で、地域の担い手の育成に繋がる手法を検討中。

【採点結果】

	団体名	得点
1	一般社団法人西区区民利用施設協会	652/925

【指定候補者及び次点候補者について】

審査の結果、「一般社団法人西区区民利用施設協会」を指定候補者として選定することと決定した。

〔講評〕

【指定候補者：一般社団法人西区区民利用施設協会】

- ・長年にわたり地域に根差した運営を継続しており、利用者との信頼関係や地域団体とのつながりを生かした施設運営について高く評価された。また、利用者や地域の課題を丁寧に把握し、地域コミュニティの拠点としての役割を果たしている点や、

地域活動の担い手育成に向けた取組についても期待が寄せられた。

- ・一方で、これまで施設利用に繋がっていない住民や、外国人、障害者など、多様な主体を取り込んでいく積極的な取組の他、利用料金や収支の考え方、人材育成、施設間連携のあり方等に施設運営の持続性の観点が必要である、との指摘があった。
- ・今後は、これまで培ってきた地域との信頼関係を基盤としながら、新たな利用者層の開拓と持続可能な施設運営の両立を図り、地域コミュニティの更なる活性化につなげていくことを期待する。

＜面接審査３：浅間コミュニティハウス 応募者：一般社団法人西区区民利用施設協会＞

（応募者）プレゼンテーション。

[質疑]

（委 員） 図書を中心とする事業展開の提案は素晴らしいと思うが、選書等を行うスタッフに司書の資格者はいるのか。

（応募者） 司書の資格者は館長とスタッフの２名。選書については、副館長含めた３名で判断している。

（委 員） 図書を強化とあるが、選書するにしてもスペースや予算の問題等があると思うが、継続して取り組んでいくうえでの課題等は有るか。

（応募者） スペースの問題はご指摘の通り。ワンフロアで児童書と成人図書をすべて網羅するのは難しい面もある。古い図書は書庫に下げることになるが、有効活用のため、書庫を活用したイベントを実施している。また、配架図書も、季節や行事に合わせて関連図書を書庫から出すなど工夫している。

（委 員） この施設には図書館と違う独自性はあるか。

（応募者） 図書の順番待ちが図書館に比べ少ない点は利点である。近隣の学校に向いて開催する「出前お話し会」も、図書館に無い独自の取組。45 分間の事業を 6 学年 14 クラスで行っている。ただ、いまだに青少年図書館時代のイメージの方が多く、コミュニティ施設としての認識が浸透していない点が課題。

（委 員） バックヤードツアーには、結構な参加者がいるのか。

（応募者） 6 月開催時は 50 名程の参加者がおり、開催を待っている方やリピーターも多い。

（委 員） こどもや若い世代の参加者はいるのか。

（応募者） 小学生の参加者は居るが、それ以上になると、学生か大人が中心になる。中学生以上は学習室で勉強して帰るだけという人が多い。

（委 員） そういう利用者にも声掛けして、アピールができるとよい。

（委 員） アウトリーチ事業に取り組んでいるとのことだが、ぜひ力を入れてほしい。本、読書の量は、経済的格差に関係しているという側面がある。3 万点の図

書をどの世代にも手に取ってもらえるようアピールしてほしい。興味関心以外の図書を提供できる「福袋」は続けてほしい。

(委 員) 平沼集会所と団体登録を共有しているとのことだが、詳しく話を聞きたい。また、上階のサービス付き高齢者向け住宅の居住者との交流はあるか。

(応募者) 他の施設と異なり、当館と平沼集会所だけは団体登録を共通化しており、登録団体は両方の施設を使えるようになっている。平沼は会議室が大きく、浅間は小さいなど、利用者の人数等により柔軟に使い分けできるようになっている。

上階の住宅居住者に対しては、入居時や入居見学時にも事務所を通じちらし等を渡してもらっている。様々な興味関心に応えられるよう「浅間コミュニティハウスだより」などにより幅広く事業のPRを行っている。

(委 員) PRについては、地区連長等を通じ、会合に会報を回すとか、掲示板に掲示してもらうなどできるのではないかな。

(応募者) 毎月「浅間コミュニティハウスだより」を町内回覧や掲示板には掲載してもらっている。若い人は紙よりSNSで情報収集するため、今後は中学生以上の若年層や、子育て中の比較的若い保護者層に向けて、SNSの活用を今以上に取り組んでいきたい。

【採点結果】

	団体名	得点
1	一般社団法人西区区民利用施設協会	607/875

【指定候補者及び次点候補者について】

審査の結果、「一般社団法人西区区民利用施設協会」を指定候補者として選定することと決定した。

[講評]

【指定候補者：一般社団法人西区区民利用施設協会】

- ・図書を中心とした施設特性を生かし、読書活動の推進やアウトリーチ事業に積極的に取り組んでいる点が高く評価された。また、限られた人員やスペースの中で、施設の特色を活かした創意工夫が見られるとの意見があった。
- ・一方で、施設の魅力や特色について更なる周知を図るとともに、これまで利用していない層へのアプローチや、地域とのつながりを広げる取組について、一層の充実を期待する意見があった。
- ・今後も図書を核とした施設ならではの特色を発展させながら、多様な世代や利用者が交流できる地域施設としての運営を期待する。

<面接審査4：平沼集会所 応募者：一般社団法人西区区民利用施設協会>

(応募者) プレゼンテーション。

[質疑]

(委 員) 稼働率が高いとのことだが、従来からの定期的な利用者が多いのか。

(応募者) 定期的な利用者が多く、最近では、周辺施設利用者が当館を知って使うようになったケースもある。コロナ禍で減った高齢者も戻りつつある。

(委 員) 予約は月 1 回で抽選ということなので、新しい団体が不利にはならないと思うが、現状新しい団体は増えているのか。

(応募者) 団体登録が増えているわけではないが、従来から利用していた横浜国大の演劇団体の繋がりや、若い大学生が増えている。

(委 員) 常時スタッフ 1 名体制だが、夜間の防犯体制で気を付けていることはあるか。

(応募者) 閉館時は機械警備を入れているが、もしもの時に機械警備のボタンを押すと警備会社と警察に発報するようになっており、研修等でスタッフに取り扱い等について周知を図っている。

(委 員) 利用者とそうでない人の区別はどうしているのか。

(応募者) 長年の利用者が多く、顔見知りでコミュニケーションがとれている。また隣の公園利用者がトイレだけ使う方も多いが、声掛けして、初めてかどうかを判断している。

(委 員) 一人体制で公園もあるとのこと。防犯カメラは設置しているか。

(応募者) 設置していない。

(委 員) 「新しい団体・活動を応援したい」と書いてあるが、教室参加者がサークルを立ち上げても、抽選だと定期的な活動場所が確保しづらいのではないかと。

(応募者) 指定事業から立ち上がった団体は、半年間月 1 回優先的に部屋を確保できるようにしている。半年後からは一般利用として抽選する。

(委 員) 緊急時の体制について、常にスタッフの訓練はしているのか。

(応募者) 年に一度、危機管理について研修を行っている。長年勤務しているスタッフが多く、反復して訓練を重ねることで、必要な行動が常に頭に入っているようになってきている。

(委 員) ワンオペで運営しているので、スタッフが怪我をするなど動けなくなることも考えられる。そういったことも考慮し様々な方法で安全を考えてほしい。

(応募者) 受付から直ぐ取れる場所にヘルメットを用意している。

(委 員) 小規模施設ということではあるが、何か改善点等の考えはあるか。

(応募者) 稼働率が良い反面、利用者が決まっている点を今後どうするか。また、稼働率が高いということでは、指定事業を増やそうとすると、利用に影響が出るため、古いものを辞める必要がある。その他、館内の動線等について、備品の配置等、バリアフリーの観点からも常にスタッフ間で意見を出し合っている。

(委 員) 収支予算書を見ると、経費の1割が電気料金と他にくらべて高くなっている。電気代の値上げなどもあるが、何か工夫して取り組んでいることはあるか。

(応募者) ここは西日が強く窓も大きいので、ガラスに保温性のあるシートを貼っている。午後には厚手のカーテンを閉め温度が上がらないようにしている。

(委 員) 公園の管理は別の者が行っているのか。

(応募者) 管理は土木事務所だが、当施設が公園愛護会として活動しているので、事実上の管理をしている。

【採点結果】

	団体名	得点
1	一般社団法人西区区民利用施設協会	570/875

【指定候補者及び次点候補者について】

審査の結果、「一般社団法人西区区民利用施設協会」を指定候補者として選定することと決定した。

[講評]

【指定候補者：一般社団法人西区区民利用施設協会】

- ・高い利用率を維持しながら、利用者ニーズに応じた運営を継続している点が評価された。また、小規模施設ならではの丁寧な運営や、日常的な工夫の積み重ねにより地域の利用を支えている点についても評価する意見があった。
- ・一方で、新たな利用者の獲得や、多様な利用者への配慮、公の施設としての包摂性の向上については、今後の課題として指摘された。また、職員体制や安全管理面についても継続的な検討を求める意見があった。
- ・今後も高い利用率と利用者満足度を維持しながら、時代の変化や地域ニーズに対応した施設運営を進めることを期待する。